

Project COTS


 ～シーギリヤにおける地域主導型観光振興プロジェクト～
 ニュースレター

No. 02

**ダンブッラ-シーギリヤ観光振興協議会
(DSTPC) 発足**

COTS プロジェクトの2つのコンポーネント、博物館開館・運営支援とシーギリヤを抱えるダンブッラ DS 地域の観光振興のうち、後者を実施する主体として、日本の自治体にある観光振興協会をモデルにしたダンブッラ-シーギリヤ観光振興協議会が発足し、3月27日、第1回の会議が開催されました。この協議会は、当初「ダンブッラ観光振興協議会」と名付けられましたが、世界的にも有名なシーギリヤと並んでイメージしてもらえるように、協議会の名に「シーギリヤ」を名前に含めることになりました。DSTPC はダンブッラ Divisional Secretary を議長とし、ダンブッラ市役所、野生保護局などの公共機関、ホテル協会や地元の商店主連盟などの民間から、それぞれ10団体が運営委員会メンバーとして参加し、月に1度会議を開催することになっています。協議会は、運営委員会により規約が策定された後、ダンブッラ DS への登録団体となるべく、手続きすることになっています。



DSTPC 第2回会議の様子

(5月4日、シーギリヤ・ハンディクラフト・ビレッジにて)

また、DSTPC としての最初の試みとして、これまで余り知られていないシーギリヤ遺跡周辺の観光スポットを紹介した地図を作成しました。今号の裏面に掲載していますので、次回シーギリヤにいらっしゃる機会に是非ご利用ください。遺跡に加えパードウォッチングやフォトスポットなど、シーギリヤ地区の魅力を再発見していただけることと思います。また、地図に関してお気づきの点、ご提案がありましたら、下記までお便りください。

Visitor Feedback, Sigiriya Museum
Sigiriya World Heritage Site
Sigiriya

一方で、運営委員会の下にはワーキンググループ(以下WG)が形成され、先ず手始めに、観光情報の収集・更新を行う情報WG、これから協会として実施していく観光振興計画の作成に取り組む観光計画WG、COTS プロジェクトと共に実施するパイロットプロジェクト案を提案するパイロットプロジェクトWGの3つが形成され、隔週で集まることになりました。

観光情報WGは、さっそくダンブッラ DS 地区にある宿泊施設の情報収集に着手しており、これは近日中に開設される DSTPC ホームページにアップされることになっています。その他にも、ダンブッラ DS 地区の観光スポット情報も充実させていく予定です。

観光計画WGはその第1回目のミーティングで、ダンブッラ DS 地区の観光資源、観光客の動向を把握した後、SWOT 分析(S:強み、W:弱点、O:機会、T:脅威)を行いました。スリランカ国内の東西南北への交通の要所である地理的な利点に加え、多くの歴史的文化遺産と豊かな自然に恵まれている一方で、バランスを欠いた観光開発が地元住民の生活スタイルの変化や自然の破壊に繋がる可能性なども指摘され、この地域の観光に関わる人々がすでに高い意識を持って「観光振興」に取り組もうとしていることが伺われました。

パイロットプロジェクトWGは観光計画WGと同じ日に実施された第1回目ミーティングで、COTS プロジェクトから観光、コミュニティ開発、商品開発等の分野でのパイロットプロジェクトを想定したパイロットプロジェクトの事例や実施方法が説明されました。参加 WG メンバーは、5月21日に行われる第2回目のミーティングで、パイロットプロジェクト案を提出することになっており、その後 DSTPC としての最終案を選定する予定です。

さらに、この観光振興協議会の事務局は、COTS プロジェクトのカウンターパート機関である CCF (中央文化基金) と SLTPB (スリランカ観光振興局) の双方からシーギリヤ博物館内の観光情報センターに配置されるスタッフが勤めることとなります。DSTPC による様々な観光情報が、シーギリヤ博物館観光情報センターで提供される計画です。

DSTPC の活動を通して、今後ダンブッラ地域に新しい観光イベントが誕生するかもしれません。乞う、ご期待!

シーギリヤ博物館 完成間近!!


シーギリヤ博物館は、国内観光客の入口となっている通称「ニュータウン」からシーギリヤ遺跡への入口へと続く歩道沿いに建っていますが、その姿は工事中、歩道から見えることはほとんどありませんでした。完成間近の今も建物の全容は緑の木々に見え隠れしており、はっきりとは見えないようになっています。これは、「博物館はシーギリヤ遺跡がそうであるように、周囲の森に溶け込むような建物であって欲しい」という、この博物館の生みの親であるパンダラナヤク教授を初めとする専門委員会の思いを反映させたものです。

建物本体の完成を目の前に、敷地一体の造園が進み、博物館の姿を水面に映し出す池とそれを囲む美しい芝生敷きの庭が姿を現しました。

**シーギリヤ博物館 館内案内スタッフ
着任**

これまでのスリランカ国内の博物館では、館内案内を担当するスタッフが見かけられませんでした。ふつと頭に浮かんだ質問を誰に聞いたらいいのか、どこを見れば答が見つかるのか、わかりづらかったのです。シーギリヤ博物館では、常設展示ギャラリーを中心に「ギャラリーアテンダント」がおり、館内の基本情報にはすぐに対応できるようにしたい、と考えています。この役目を担うスタッフが4月30日に8名着任。これまでもシーギリヤ遺跡に勤務し、遺跡に関する基礎知識と、なによりも愛着を持っています。ギャラリーアテンダントに加え、来館者を迎入れる館の顔となるレセプションистも2名配置され、ギャラリーアテンダントと共に博物館の成り立ち、そのコンセプトや、展示内容に関する研修を受けています。

博物館とシーギリヤ遺跡のキーワード: 対象性

古代シーギリヤの設計者は以下のような対象的な要素が見事に調和した庭園を造りあげました。

幾何: 自然
対象性、計画性: 現実、非対称性
水(文化): 石(自然)
テラス: 丘陵
造物: 植生

(パンダラナヤク教授による)

さらに、CCF 出版物を扱うブックショップ、チケットカウンターに配置されるスタッフも参加し、「シーギリヤ博物館の提供するサービスの基準」をワークショップを通して決定しました。ワークショップでは自分たちがこれまでに経験した印象の良かったサービス、悪かったサービスを思い出し、どんなサービスを提供すれば来館者が「シーギリヤ博物館、よかった!」「また行きたいね。」と言ってくれるようになるか、を話し合いました。

「お店で質問をしたら、いろいろと説明してくれた」という好感の持てる対応や、ある手続きに行った窓口で「待たされた挙句に、来る必要はなかったと言われた」、「バス代を払おうとしたら、小銭を出せて高飛車に言われた」など悪い印象を残した対応など、様々な事例が挙げられました。それに加え、ディスカッションには COTS メンバーも参加し、「食事中にあれこれと聞かれて落ち着いて食事が出来なかった」といった外国人としての経験もシェアしました。その結果、シーギリヤ博物館のサービスの8つの柱として選ばれたのか以下のキーワードです。

- 1) Welcoming (迎え入れる気持ちを持ち);
- 2) Guidance (相手を戸惑わせず);
- 3) Friendly (親近感が持て);
- 4) Correct Information (正しい情報を提供し);
- 5) Efficient (相手の時間を無駄にせず);
- 6) Helpful (機転が利き);
- 7) Polite (丁寧で、相手を思いやり);
- 8) Give Space (適切な距離感をもって)

館内スタッフはこうしたサービスを提供できるようになるよう、今後も常設展示理解、基礎英会話などの実務と併せて研修を重ねていきます。



ビジターサービス・ワークショップで自らの経験を発表する館内スタッフ。

シーギリヤ博物館スタッフ紹介- 第1回 -

CCF シーギリヤ プロジェクトマネージャー
スメダ・カルナラトネ氏

Q: シーギリヤへ来て何年になりますか?

A: 12年です。

Q: シーギリヤ遺跡の一番の魅力は何ですか?

A: 自然との融合を実現させた5世紀の卓越した技術を21世紀に伝えているという考古学的な価値に加え、フレスコ壁面の芸術性を兼ね備えていること。

Q: シーギリヤ博物館で一番好きな場所は?

A: 常設展ギャラリー内のギャラリー1。特に後半のイッパンカトゥワの発掘(1988年)には自らも参加したので、思い入れがあります。

Q: COTS プロジェクトは観光振興と並行して行っています。期待するところは?

A: シーギリヤにより多くの観光客が訪れ、地域全体が豊かになるため、博物館だけでなくいろいろな方面が改善されるよう期待しています。

JICA 供与車両
「シーギリヤ博物館」号。
街で見かけたら、
手を振ってくださいね!

